

奄美野生生物保護センター
ニュースレター

奄美の風だより



年度末となり、忙しい時期となりました。こう忙しい時期に限って、寒暖の差が激しく、体調を崩せと言わんばかりの天候です。でも、まあ…天気に文句を言っても始まらないので、頑張っ
て耐え抜くしかないですね。

さて、上の写真は、奄美野生生物保護センターで捕獲したノネコたちです。センターでは、アマ
ミノクロウサギなどの奄美の生きものを守るために、山で野生化してしまったノネコを捕獲する活
動を行っています。また、捕獲したノネコたちを人に慣らし、新たな飼い主を見つける里親さがし
にも取り組んでいます。

動物愛護法によって、ネコの遺棄は禁止されていますが、山で捕獲されるノネコの数は減るこ
とはありません。ネコはとても優秀なハンターです。愛らしい姿だけではなく、野生的な面を色濃
く残しているペットであるということを知って下さい。ノネコによって奪われるアマミノクロウサ
ギなどの生きものたちの命。これから世界自然遺産登録を目指すにあたり、ノネコの対策は大き
な課題の一つです。

(吉田)



今の時期に見られる動植物



ミヤマホオジロ

奄美へは冬鳥として渡来し、農耕地や林道で見られる。雌雄とも小さな冠羽がある。眉斑と喉は、やや黄色味をおびている。



フジノカンアオイ

奄美大島に分布。常緑広葉樹林内の湿度の高い林床に生える多年草。生育地によって、葉質や花の色などの個体差が著しい。



リュウキュウカジカガエル

トカラ列島、奄美群島、沖縄諸島、台湾に分布。3～9月が繁殖期で、浅い水の流れがある所などに産卵する。



ハマダイコン

日本各地に分布。海岸の砂地に生える越年生草本。ダイコンが野生化したもの。若葉、花、果実、根は食用となる。



今季の一枚 「アマミアセビ」

奄美大島にしか分布していない植物です。しかし、野生下ではほぼ絶滅の状態です。その理由は園芸採取によるものです。自然の中では見られなくなったアマミアセビですが、庭先などで植えられているものを見ることがあります。

写真のアマミアセビは、増殖させ自生地で植え戻しの活動を行っている研究者の方からゆずっていただいたものです。たくましく育ち、美しい花を咲かせてくれました。自然の中で、この美しい花を見ることが出来るようになってほしいものです。



奄美群島市町村だより

自分たちの地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。



今回は
知名町
です



ウジジ海岸

知名町は沖永良部島の南西部に位置し、海拔 245mの大山を中心にその裾野に 21 の集落が形成されています。地下には多数の鍾乳洞が存在し、近年はケイビングが注目を浴びています。

【ハイビスカス】

知名町の花

南国をイメージさせる代表的な花であり、1年を通して色とりどりの大輪の花を咲かせ、見る人の目を楽しませてくれます。



おすすめ

観光名所「田皆岬/昇竜洞/ジッキョヌホー」



【田皆岬】

島の北西部にあり、東シナ海に突き出した岬は、高さ約50mの断崖絶壁です。目前に広がる大海原は海中が透き通って見えるほど透明度が高く、年中を通してウミガメ、冬場にはクジラを見ることができます。岬周辺の海はダイビングスポットともなっています。毎年8月には集落をあげて「岬まつり」が開催されています。映画「青幻記」のロケ地となるなど、島内屈指の景勝地で、奄美十景の1つです。

【昇竜洞】

暗黒の地底に展開する全長3,500mの大鍾乳洞、そのうち主洞の600mが一般公開されています。太古の昔から大自然の営みによって創造され、その神秘的な造形と輝きで人々を魅了しつづける地底のオブジェです。平成22年度に洞内の照明をLED照明にリニューアルし、一部をカラー照明にしたことにより、地元はもとより観光客にも好評です。鹿児島県指定文化財天然記念物です。



【ジッキョヌホー】

全島隆起珊瑚礁のため水利が極めて乏しい沖永良部島では、各所に点在する湧き水を「命の水」として、大切に守り継いできました。瀬利覚の川という意味の「ジッキョヌホー」もその1つであり、農業用水、洗濯、野菜洗い、子供達の遊び場など、現在も集落のシンボルとして、原型をとどめています。毎年7月には集落をあげて「ホーマつり」が開催されています。平成20年に環境省より平成の名水100選に選定されています。



(知名町 産業政策課)



いきもののふしぎ ~ アマヤマシギのお話 ~



とても地味な色合いのためか、ルリカケスやアカショウビンに比べると本の表紙などを飾ることがあまりなく、目にする機会が少ないアマヤマシギ。しかし、形態や生態をよく見ると、とても愛らしく親しみが持てる鳥です。アマヤマシギの魅力を存分に知ってください。



ポイント

アマヤマシギとは？
奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、徳之島では留鳥。喜界島、沖永良部島では冬鳥。沖縄でも観察されているが、繁殖しているかしていないかは不明。絶滅危惧Ⅱ類。国内希少野生動植物種。

アマヤマシギの形態・生態



昼行性？夜行性？

今までは夜行性と考えられていましたが、最近の研究では昼間も活動しているのではないかとされています。アマヤマシギの生態はまだまだ分かっていないことがあります。

月の明るい夜には、林道上によく現れる。

くちばしが、反り返っているのがわかります。くちばしは、意外に柔軟性があるのでしょうか？



ヴーヴー

★ 長いくちばし

★ 褐色の羽

鳥なのに飛ぶのが下手。風が強い日は、前に進めず、後ろに流されることも。

✂ エサは主に「ミミズ」！

ミミズなどの土壌動物を長いくちばしで引っ張りだして食べます。

★ 尾羽が短い

→ 照葉樹林の林床や枝の上などで休息

★ すんぐりとした体

★ 動きがのろい



小話

方言でシギヤと呼ばれ、おじいちゃんおばあちゃん世代はよく知っている鳥のようです。昔は、食用として捕っていたそうで、とても美味しかったとのこと。

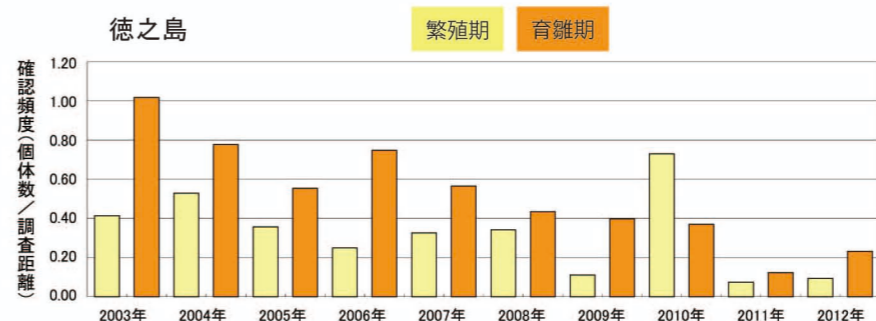
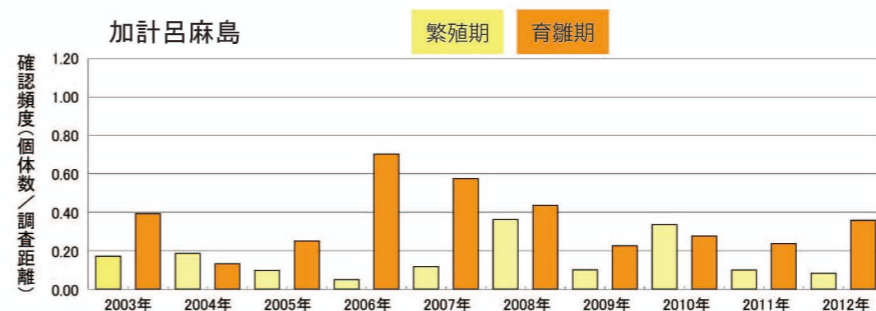
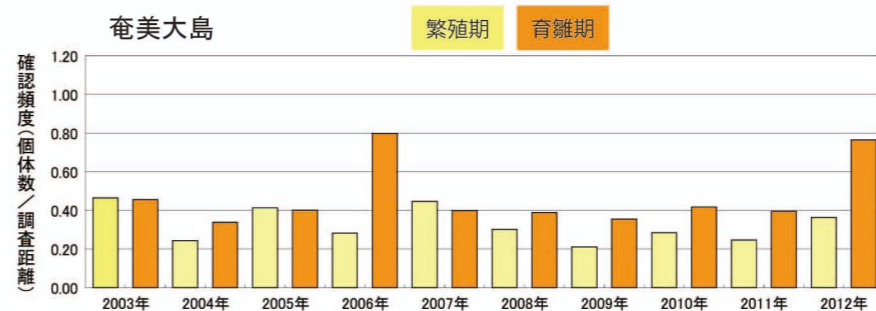
林縁や林内の草藪に地上営巣



アマヤマシギのヒナ

分布調査

センターでは、奄美大島、加計呂麻島、徳之島でのアマヤマシギの生息状況とその経年変化を把握するため、繁殖期（3月）と育雛期（6月）に夜の林道で調査を行っています。下のグラフは、過去10年分の確認頻度の経年変化を示しています。※確認頻度とは…調査ルートで確認されたアマヤマシギの個体数を調査距離で割ったもの。



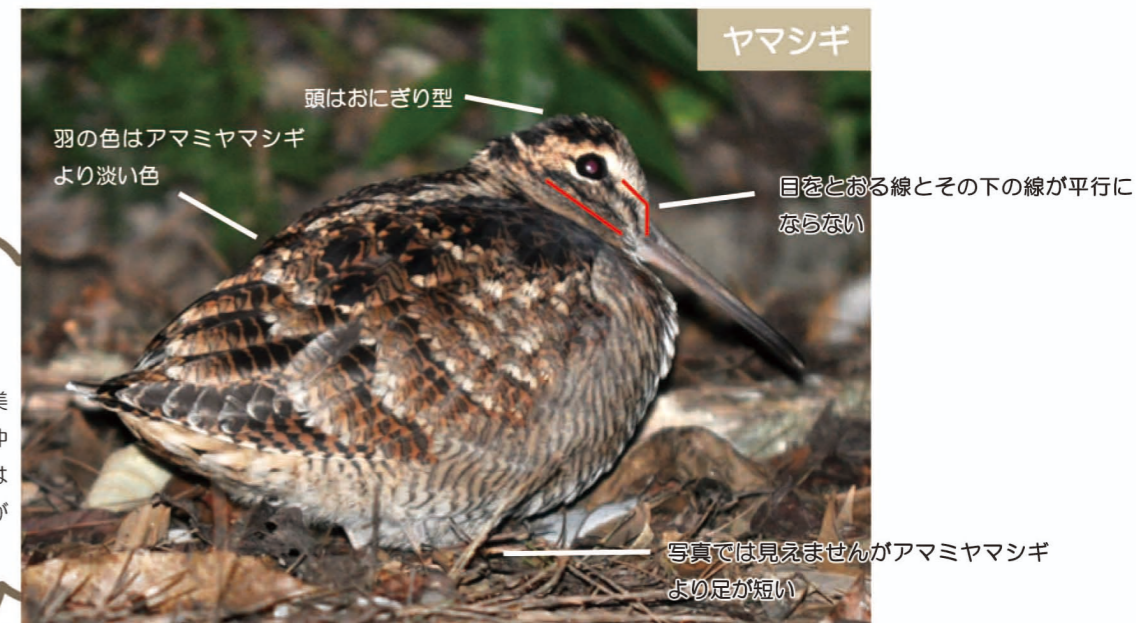
グラフを見て分かること

2012年の調査では、三島ともに繁殖期から育雛期にかけて確認頻度が増加しました。2011年と比較すると、三島ともに育雛期の確認頻度が大きく増加しました（1.5～2倍程度）。特に奄美大島では、2006年の育雛期に次ぐ過去2番目に高い値となりました。

経年変化を見ると、奄美大島では大きな変化はありませんが、徳之島では減少傾向を示しています。加計呂麻島では2006年以降減少傾向が続いていましたが、今年の育雛期に比較的多くの確認がありました。徳之島と加計呂麻島については、今後、モニタリング体制の充実を図ることが課題となっており、徳之島では2012年からセンサーカメラによる本格的な調査を開始しました。

ヤマシギとの違い

冬の時期には、近縁種であるヤマシギが渡ってきます。アマヤマシギとヤマシギはとても姿が似ているため見分けるのは難しいです。見分けるポイントを解説します。



ヤマシギの基本情報

本州中部以北で留鳥。奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島では、旅鳥または冬鳥で秋に渡来し、少数が越冬します。



アマミノクロウサギのモニタリング調査

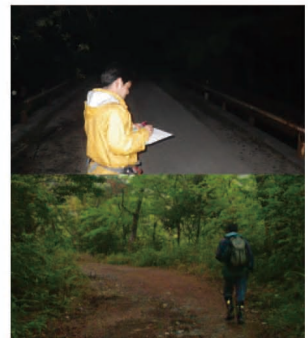
センターでは、毎年1月から2月にかけて、アマミノクロウサギのモニタリング調査を行っています。この調査は、沢沿いを歩きフンの数を数え、アマミノクロウサギの生息状況とその経年変化を把握することを目的としています。今年の調査結果を、次号でご紹介できたらと思います。



オオトラツグミー斉調査

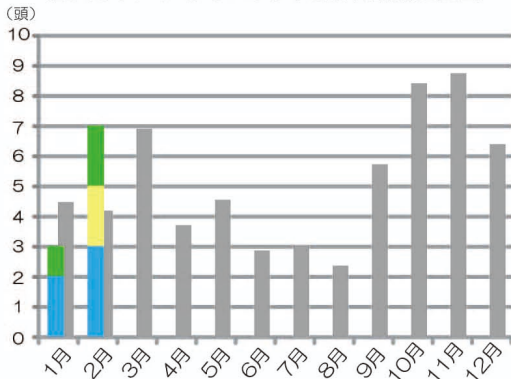
とき：3月17日（日）

場所：奄美中央林道、金作原林道、里林道、油井岳、湯湾岳
毎年行われている一斉調査。今年は140名もの調査ボランティアが参加し、オオトラツグミーのさえずりに耳を澄ませました。今年の奄美中央林道における確認個体数は97羽。1994年の調査開始以降、最高の確認数となりました。



アマミノクロウサギ死体確認数

(2013年 アマミノクロウサギの死体確認数と死因)



※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを発見したら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。



奄美に住む動物たちのために、あなたができること

安全運転

林道では20km/h以下で走行しましょう。

犬・ねこの適正飼育

捨てない

最後まで責任をもって飼いましょう

不妊・去勢手術

繁殖制限することで、望まれない命を生み出さないことと、ペットの健康を守ることにあります。

マイクロチップ

ペットの確実な身元証明になります。



犬・ねこに関するお知らせ

犬・ねこに与えてはいけぬ食べ物やきちんと把握しましょう。人の食べ物は決して与えてはいけません。可愛いからと何でも与えるのは愛情ではありません。犬には犬、ねこにはねこで必要な栄養素が変わってきます。チョコレートあげたり、刺身中心の食事を与えると聞きますが、それらは、犬・ねこにとって病気の元です。正しい知識をもってエサを与えましょう。

いきものおもしろ写真館



サツマゴキブリ

本来は褐色ですが、この個体は真っ白です。羽化直後はこのように白いそうです。ちなみに白いゴキブリは、ゴキブリ界では「王子様」になるとか。う〜ん…虫好きの方には、特別な存在なんですね。

編集後記



花粉の季節となりました。奄美大島にきてからはほとんど症状はでなくなりましたが、やはりこの季節になると、少しだけ目が痒くなったり、くしゃみがでます。そして、今年は花粉だけではなくPM2.5という恐ろしい物質が飛んでいます。本州の方々は、たださえ例年より7倍の花粉が飛ぶといわれているのにそれに加え…。どうか乗り切ってください。